

はじめに：絵の依頼

絵草紙屋や地本問屋(版元)が
絵師に依頼をします。



浮世絵の

できるまで



① 版下画を描く

アウトラインだけを
描くので
「骨がき」とも
いいます。



② 検閲

地本問屋行専
(同業者の仲間内
の当番制)又は
絵名主(町々の長
から月ごとの交替で
選ばれる)がチェックします。

公序良俗に
反していないか?

幕府を
批判して
ないか?



...うん。ok!

改印は時代ごとに異なる

③ 彫り

★まず、版木に版下画をのり付けします。



※紙が厚いときは、
絵がすけて見える
ように、紙うらを
こすり取ります。

小刀

のみ

あいすき
間透

木槌

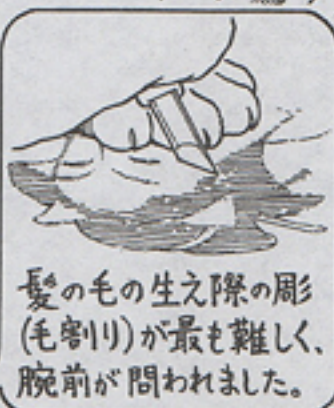


彫りの道具

★小刀で輪郭を切り廻します。

見当：複数の版が
ずれないように、紙の位置を
決めるために彫られるガイド。
「かぎ」と「引付け」のセット。

机は
やや手前が
下っている。



髪の毛の生え際の彫り
(毛彫り)が最も難しく、
腕前が問われました。

★のみで広い部分
を取り除きます。



★最後に間透で絵のまわりをすき取ります。



こうして、墨板が完成します!

④ 色分け

彫師の手によって、色分けのための墨一色
の摺(校合摺り)が、使う色の数だけ摺られます。
(このとき、見当も一緒に摺るのがポイントです。)

絵師は、それぞれの校合
摺りに、各色のエリアを
薄朱などで指定します。
それらを版木にのり付けし、
③と同様の工程で
色板が彫られます。

